

足立区議会公明党

Table with 2 columns: Budget Category (e.g., 一般会計, 国民健康保険特別会計) and Status (e.g., 認定, 定定).

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。

21年度予算は、厳しい財政環境の下、「重点プロジェクト推進戦略は未来への道標(みちしるべ)」と銘打ち、「子どもくらし」「まちづくり」という重点プロジェクトを確実に推進することに力点をおいた予算であった。

また、近藤区長が自らの手で初めて編成した20年度予算とその執行状況を踏まえた年間総合予算であり、区が抱える諸課題に対し、よりパワーアップした取り組みがなされるのかが注目されていた。こうした視点に立ち、本決算の執行体制を見ると、重点プロジェクトの項目別に予算編成がなされ、複数年度方式、包括予算制度により各々が区民ニーズに的確に対応する姿勢が定着してきた。

普通会計決算では、財政運営の弾力性や健全性を示す経常収支比率が80%を超過した。自主财源の根本をなす区税収入は平成16年度以来の減収となった。とりわけ、都区財政調整交付金や特別区民税の大幅な減収が見込まれる中、国の税制改正の動きも判断を許さない状況であり、最後に、次年度の予算編成にあたり、新線開業に伴う周辺まちづくりや大学連携等様々な課題に留意されるよう指摘する。

今後、区の魅力を発掘・磨き・創造するとともに、それらを戦略的に発信し、足立区を誇れるまちへ進化させることを期待し、本委員会において我が党委員の指摘した提案及び要望事項を尊重し、その実現に努力されるよう強く要望する。



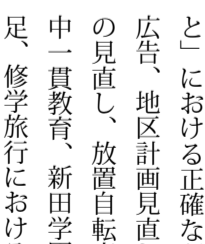
たがた 直昭 委員

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。

21年度予算は、厳しい財政環境の下、「重点プロジェクト推進戦略は未来への道標(みちしるべ)」と銘打ち、「子どもくらし」「まちづくり」という重点プロジェクトを確実に推進することに力点をおいた予算であった。

また、近藤区長が自らの手で初めて編成した20年度予算とその執行状況を踏まえた年間総合予算であり、区が抱える諸課題に対し、よりパワーアップした取り組みがなされるのかが注目されていた。こうした視点に立ち、本決算の執行体制を見ると、重点プロジェクトの項目別に予算編成がなされ、複数年度方式、包括予算制度により各々が区民ニーズに的確に対応する姿勢が定着してきた。



へんみ 圭二 委員

足立区議会民主党・無所属

Table with 2 columns: Budget Category (e.g., 一般会計, 国民健康保険特別会計) and Status (e.g., 認定, 定定).

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。

足立区議会自由民主党

Table with 2 columns: Budget Category (e.g., 一般会計, 国民健康保険特別会計) and Status (e.g., 認定, 定定).

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。

21年度予算は、厳しい財政環境の下、「重点プロジェクト推進戦略は未来への道標(みちしるべ)」と銘打ち、「子どもくらし」「まちづくり」という重点プロジェクトを確実に推進することに力点をおいた予算であった。

また、近藤区長が自らの手で初めて編成した20年度予算とその執行状況を踏まえた年間総合予算であり、区が抱える諸課題に対し、よりパワーアップした取り組みがなされるのかが注目されていた。こうした視点に立ち、本決算の執行体制を見ると、重点プロジェクトの項目別に予算編成がなされ、複数年度方式、包括予算制度により各々が区民ニーズに的確に対応する姿勢が定着してきた。



くじらい 光治 委員

普通会計決算では、財政運営の弾力性や健全性を示す経常収支比率が80%を超過した。自主财源の根本をなす区税収入は平成16年度以来の減収となった。とりわけ、都区財政調整交付金や特別区民税の大幅な減収が見込まれる中、国の税制改正の動きも判断を許さない状況であり、最後に、次年度の予算編成にあたり、新線開業に伴う周辺まちづくりや大学連携等様々な課題に留意されるよう指摘する。

今後、区の魅力を発掘・磨き・創造するとともに、それらを戦略的に発信し、足立区を誇れるまちへ進化させることを期待し、本委員会において我が党委員の指摘した提案及び要望事項を尊重し、その実現に努力されるよう強く要望する。

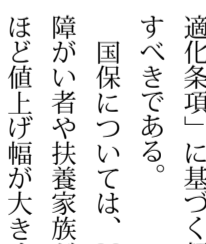
特別会の決算委員(要旨)

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。

21年度予算は、厳しい財政環境の下、「重点プロジェクト推進戦略は未来への道標(みちしるべ)」と銘打ち、「子どもくらし」「まちづくり」という重点プロジェクトを確実に推進することに力点をおいた予算であった。

また、近藤区長が自らの手で初めて編成した20年度予算とその執行状況を踏まえた年間総合予算であり、区が抱える諸課題に対し、よりパワーアップした取り組みがなされるのかが注目されていた。こうした視点に立ち、本決算の執行体制を見ると、重点プロジェクトの項目別に予算編成がなされ、複数年度方式、包括予算制度により各々が区民ニーズに的確に対応する姿勢が定着してきた。



ぬかが 和子 委員

日本共産党足立区議団

Table with 2 columns: Budget Category (e.g., 一般会計, 国民健康保険特別会計) and Status (e.g., 認定, 定定).

平成21年度決算は、普通会計歳入が2千469億5千500万円、歳出が2千374億7千800万円、実質単年度収支は25億5千100万円の赤字、実質収支比率は5.6%、経常収支比率は81.9%に上昇し、健全化判断指標の実質公債比率は3.4%と良好な水準を維持した。

景気の落ち込みにより、特別区交付金等は減収となったが、総額では繰越金等の増収で、前年度より83億円増となった。歳出では、特に義務的経費が前年度より、計72億円増となり、23区の構成比平均が減少する中、当区も52.5%に減少したが、依然、支出の半分以上を占める。